

2024 年度 企業アンケート結果について

1. 対象企業数：

本学卒業生の就職実績のある企業 1,147 社 （回答 380 社）

2. 実施期間：

2025 年 3 月 21 日（金）～ 4 月 4 日（水）

3. 目的

本学のキャリア教育等へ反映させ教育改善へ役立てることを目的とする。

【問い合わせ先】

東京電機大学

学生支援センター（キャリア支援・就職担当）

IR センター

Q1. 貴社の業種分類についてお答えください。

Q2. 最近（目安 4～5 年の間）貴社に入社した本学卒業生はいますか。

Q3. 最近（目安 4～5 年の間）貴社を退職した本学卒業生はいますか。

Q4. 最近（目安 4～5 年の間）貴社に入社した本学卒業生について、貴社が求める人材像との比較において以下の能力等はどのように感じられますか。1～5 の該当する番号を選択ください。

- a.コミュニケーション能力 b.意欲・積極性 c.基礎的な知識・技術 d.応用力・想像力
e.日本語力・文章力 f.論理的思考 g.語学力 h.問題解決能力・実行力
i.ストレス耐性・粘り強さ
5：高い 4：やや高い 3：ふつう 2：やや低い 1：低い

Q5. 上記 4 に関連し、本学でより充実するとよいと思われる教育はどのようなものですか。

当てはまるものすべてにチェックしてください。

- ① コミュニケーション能力の育成 ② 課題解決型教育
③ 研究成果発表などプレゼン能力 ④ 専門ソフト等のスキルアップ
⑤ より実践的な実験・実習 ⑥ 一般常識・教養教育 ⑦ グループワーク
⑧ キャリア教育 ⑨ インターンシップ ⑩ 資格取得支援 ⑪ 英語教育
⑫ 日本語力・文章力 ⑬ メンタルトレーニング ⑭ その他

※上記 5 でチェックいただいた回答のうち、一番重要だと思われるものをご選択ください。

Q6. 最近（目安 4～5 年の間）の本学卒業生について特に感じる傾向等がありますか。

当てはまるものすべてにチェックしてください。

- ① まじめで手堅い ② 素直で指示によく従う ③ 協調性がある
④ リーダーシップがある ⑤ 勉強熱心で向上心が高い ⑥ 同窓のつながりが強い
⑦ 積極的で主体性がある ⑧ 競争意識が高い ⑨ メンタル的に強い ⑩ その他

※上記 6 でチェックいただいた回答のうち、一番重要だと思われるものをご選択ください。

Q7. 最近（目安 4～5 年の間）の本学卒業生についての満足度をお伺いします。

- ① 大変満足 ② おおむね満足 ③ 満足ではない

Q8. 社会人として必要な能力育成の観点から特に役立つと思われる正課外の大学生活での経験等がありますか。当てはまるものすべてにチェックしてください。

- ① アルバイトなどの社会人経験 ② 学生団体・部活・サークル活動
③ グループ・団体等でのリーダー体験 ④ ボランティア活動
⑤ イベント等の企画・運営 ⑥ 社会人との交流 ⑦ コンテスト・競技会等への参加
⑧ 趣味等のコミュニティへの参加 ⑨ 留学等の海外体験 ⑩ その他

Q9. 本学がディプロマサプリメント※を発行することを希望しますか。

（※学生が取得した学位・資格の学修内容について大学が証明する説明文書です）

- ① 希望する ② 希望しない ③ どちらでもよい

Q10. いわゆる成績証明書以外に成績の補足として期待する情報がありましたらご選択ください。

- ① 卒業要件 ② 学修到達度 ③ TOEIC 等の外部試験の成績 ④ 免許・資格情報
⑤ その他

【次世代研究者挑戦的研究プログラム（博士(後期)課程 SPRING）における社会ニーズ調査項目】

Q11. 過去 5 年の博士課程(後期)修了者の採用状況について教えてください。

- ① 毎年採用している ② 採用する年もある ③ 採用していない

Q12. 博士課程（後期）修了者の在籍状況について教えてください。

- ① 在職者数は年々増加している ② 在職者数は変わらない
③ 在職者数は減少している ④ 在籍していない

Q13. 博士課程(後期)修了予定者の採用計画について教えてください。

- ① 採用数を増やす予定である ② 採用数に変更はない ③ 採用数を減らす予定である
④ 採用予定はない ⑤ わからない

Q14. 今後の博士課程(後期)修了予定者の採用予定方法について教えてください。

- ① 博士課程(後期)修了予定者に限定した枠組みで募集する
② 学歴に関係なく新卒枠で募集する
③ 博士課程(後期)修了予定者の採用予定はない
④ その他（ ）

Q15. 博士課程(後期)のインターンシップ等の実施状況について教えてください。

- ① 文部科学省ジョブ型研究インターンシップを実施している
② 博士課程(後期)学生に特化して 1-3 日間程度受け入れる形式で実施している
③ 博士課程(後期)学生に特化して 5-10 日間程度受け入れる形式で実施している
④ 博士課程(後期)学生に特化して 2 週間－ 1 か月程度受け入れる形式で実施している
⑤ 博士課程(後期)学生に特化して長期間（1 か月以上）受け入れる形式で実施している
⑥ 学部・修士課程学生と同じ枠組みで受け入れる形式で実施している
⑦ 博士課程(後期)の受け入れについては個別に対応している
⑧ 博士課程(後期)学生は受け入れる予定はない
⑨ その他（ ）

Q16. 社員に博士号取得を勧めていますか？

- ① 勧めている ② 勧めてはいない

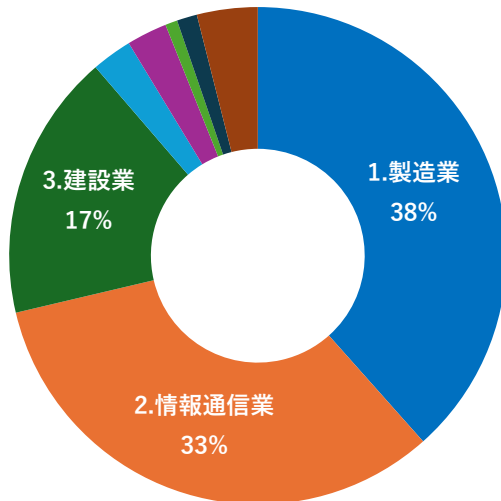
Q17. 社員の博士号取得をサポートする制度がありますか？

- ① 有（具体的内容： ） ② 無

Q18. 上記項目で「有」と回答された方は具体的な内容を教えてください。

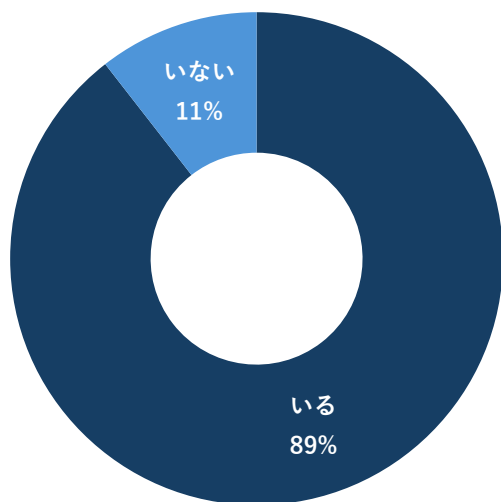
Q19. その他、本学や本学学生についてご意見やご要望などがあれば自由にご記入ください。

Q1. 貴社の業種分類についてお答えください。



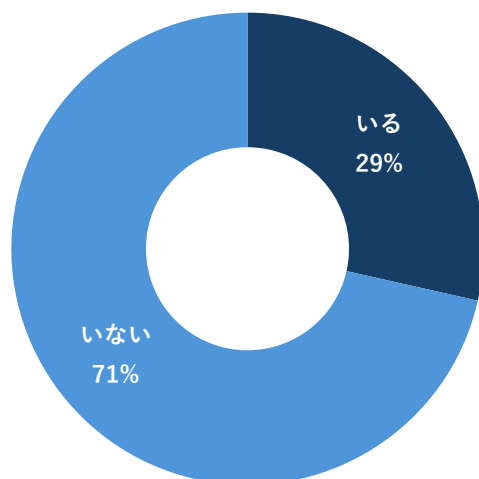
業種	回答企業数
1.製造業	146
2.情報通信業	125
3.建設業	66
4.商社	10
5.サービス	10
6.輸送	3
7.不動産	5
8.その他	15
総計	380

Q2. 最近（目安 4～5 年の間）貴社に入社した本学卒業生はいますか。



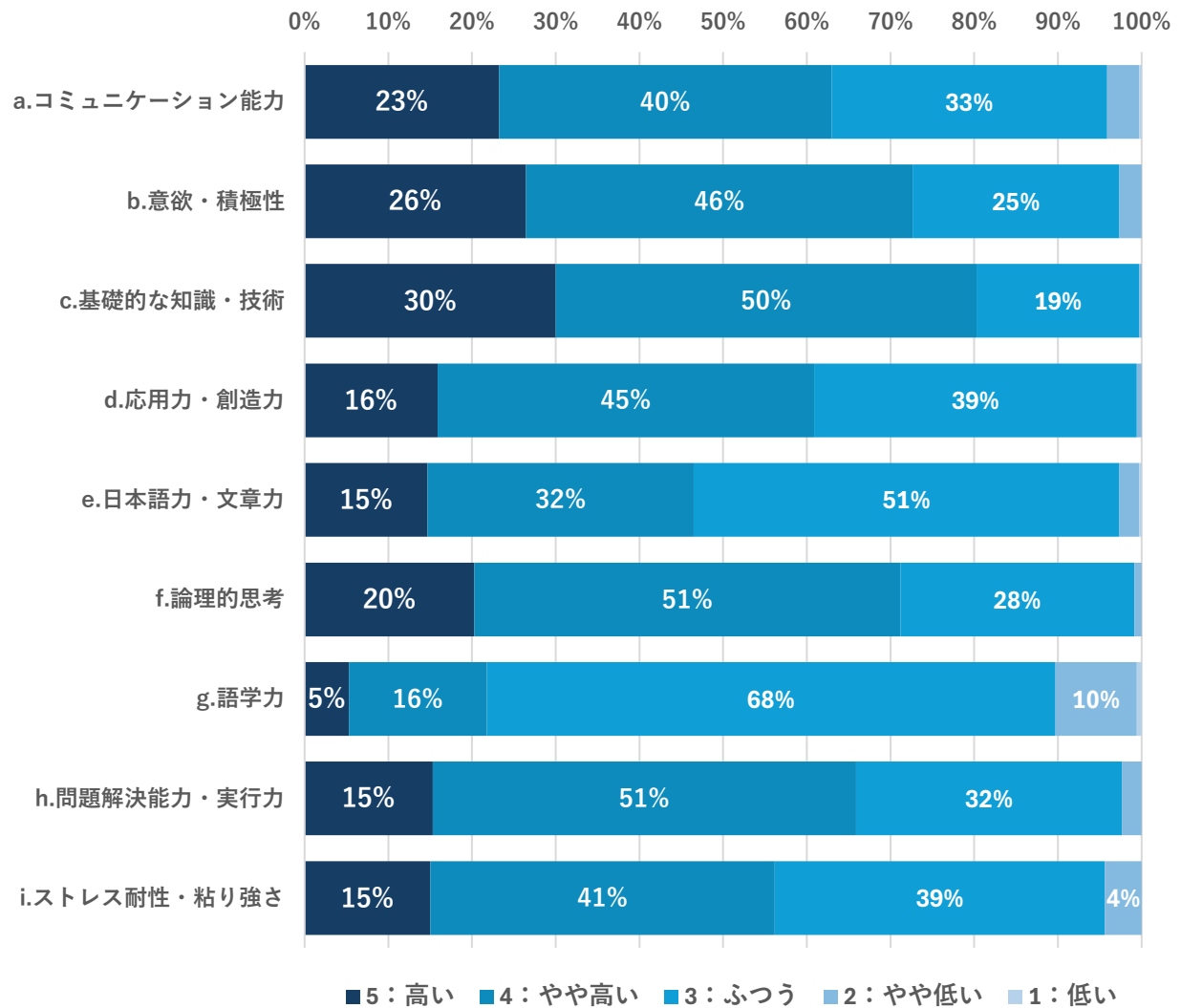
	いる	いない	総計
1.製造業	129	17	146
2.情報通信業	117	8	125
3.建設業	57	9	66
4.商社	7	3	10
5.サービス	10		10
6.輸送	2	1	3
7.不動産	4	1	5
8.その他	14	1	15
総計	340	40	380

Q3. 最近（目安 4～5 年の間）貴社を退職した本学卒業生はいますか。



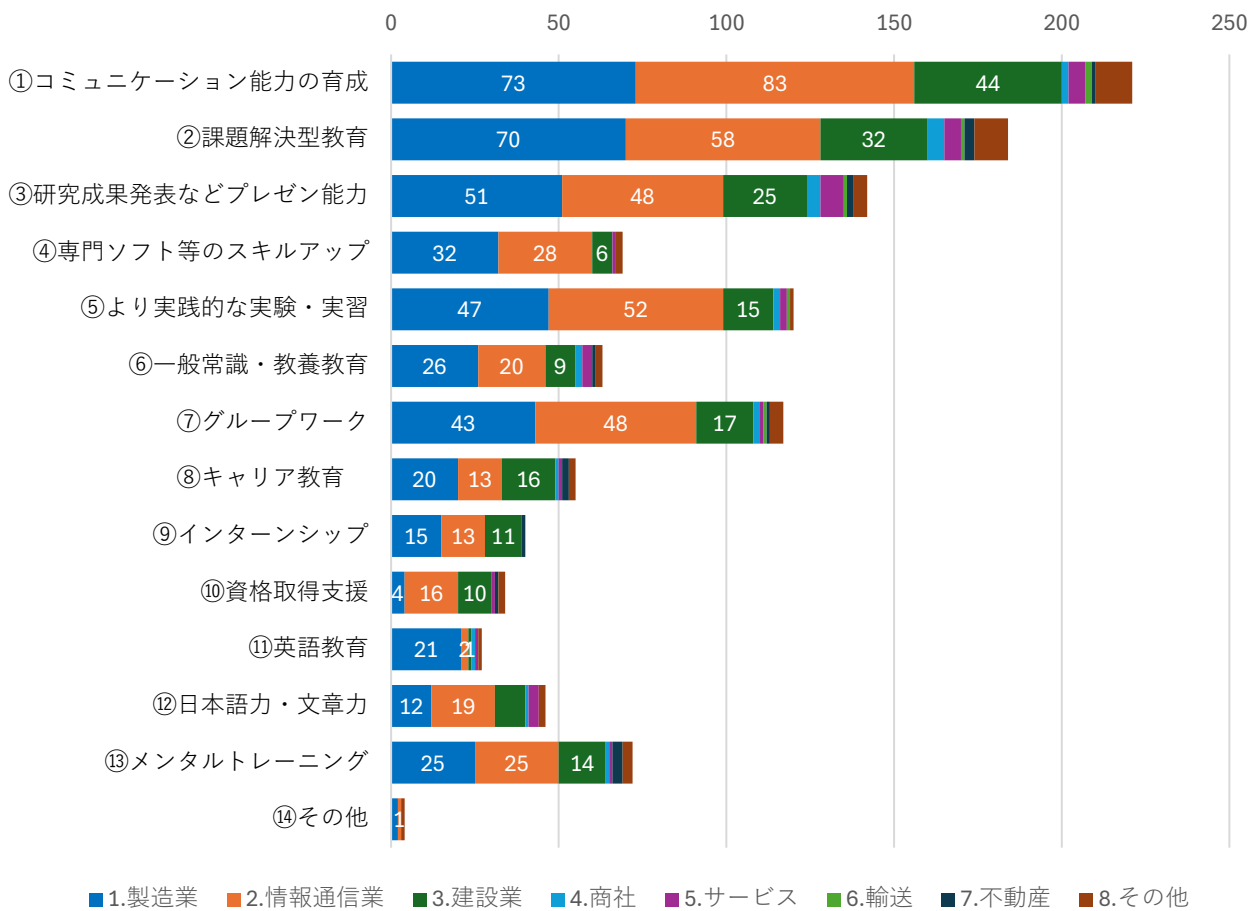
	いる	いない	総計
1.製造業	36	93	129
2.情報通信業	34	83	117
3.建設業	18	39	57
4.商社	2	5	7
5.サービス		10	10
6.輸送	1	1	2
7.不動産	3	1	4
8.その他	3	11	14
総計	97	243	340

Q4. 最近（目安4～5年の間）貴社に入社した本学卒業生について、貴社が求める人材像との比較において以下の能力等はどのように感じられますか。

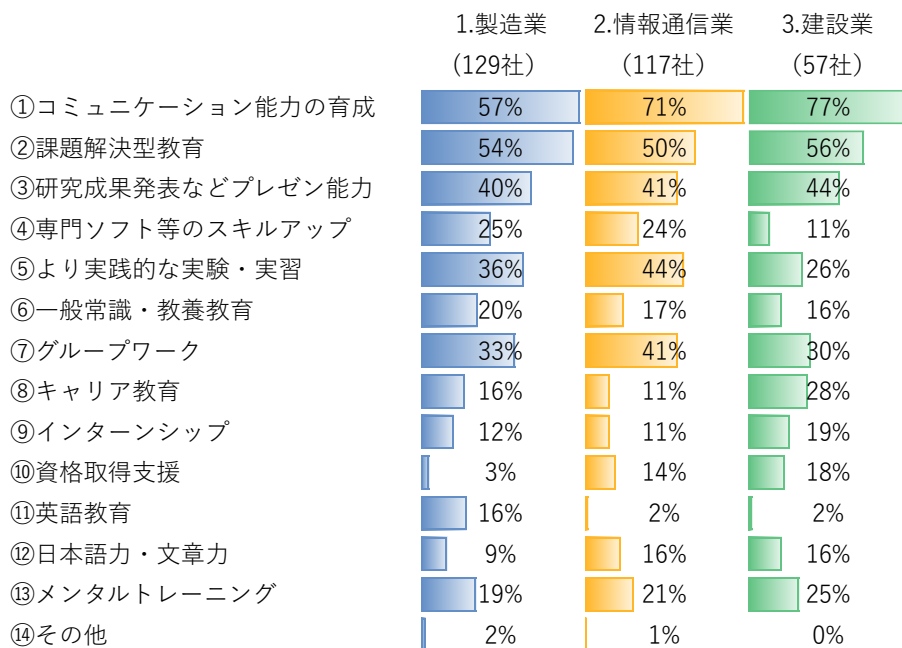


	5:高い	4:やや高い	3:ふつう	2:やや低い	1:低い	総計
a.コミュニケーション能力	79	135	112	13	1	340
b.意欲・積極性	90	157	84	9		340
c.基礎的な知識・技術	102	171	66	1		340
d.応用力・想像力	54	153	131	2		340
e.日本語力・文章力	50	108	173	8	1	340
f.論理的思考	69	173	95	3		340
g.語学力	18	56	231	33	2	340
h.問題解決能力・実行力	52	172	108	8		340
i.ストレス耐性・粘り強さ	51	140	134	15		340

Q5. Q4.に関連し、本学でより充実するとよいと思われる教育はどのようなものですか。
 当てはまるものすべてにチェックしてください。(複数回答)

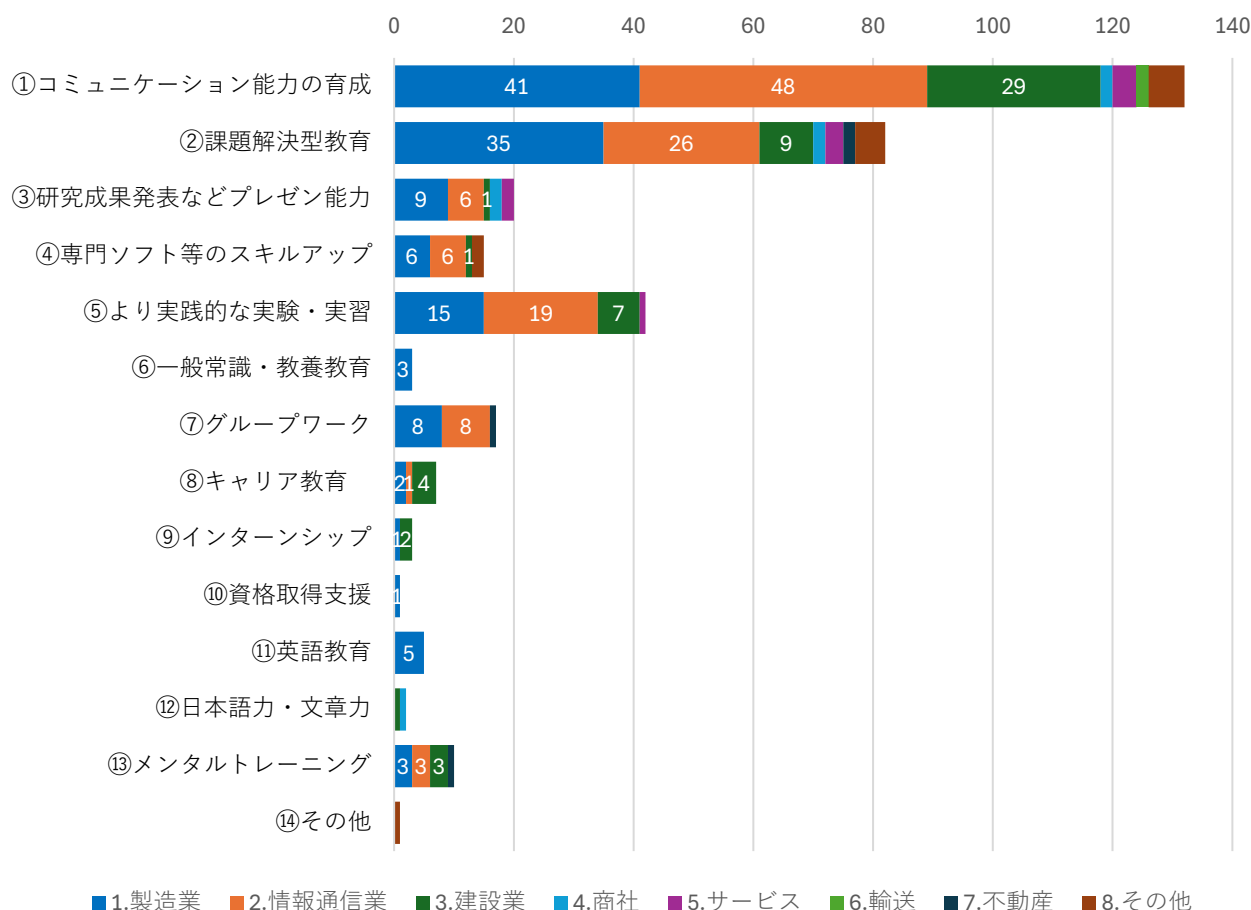


主な業種（製造業・情報通信業・建設業）の各項目の回答状況

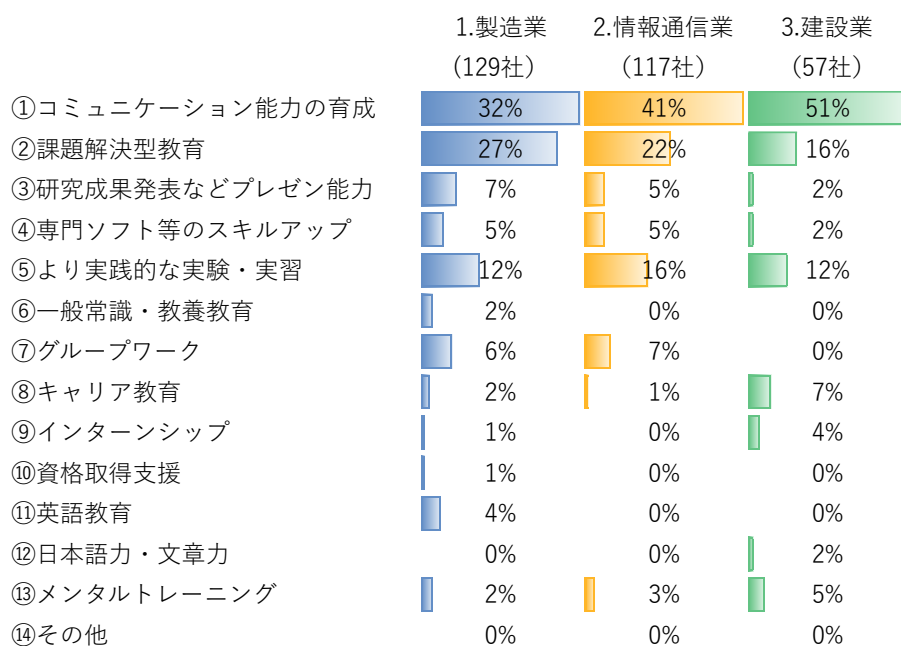


「①コミュニケーション能力の育成」は、情報通信業と建設業で 70%以上が回答。「⑤より実践的な実験・実習」は情報通信業において、「⑪英語教育」は製造業において、他業種と比較し回答が多い。

※Q5 チェックいただいた回答のうち、一番重要だと思われるものをご選択ください。

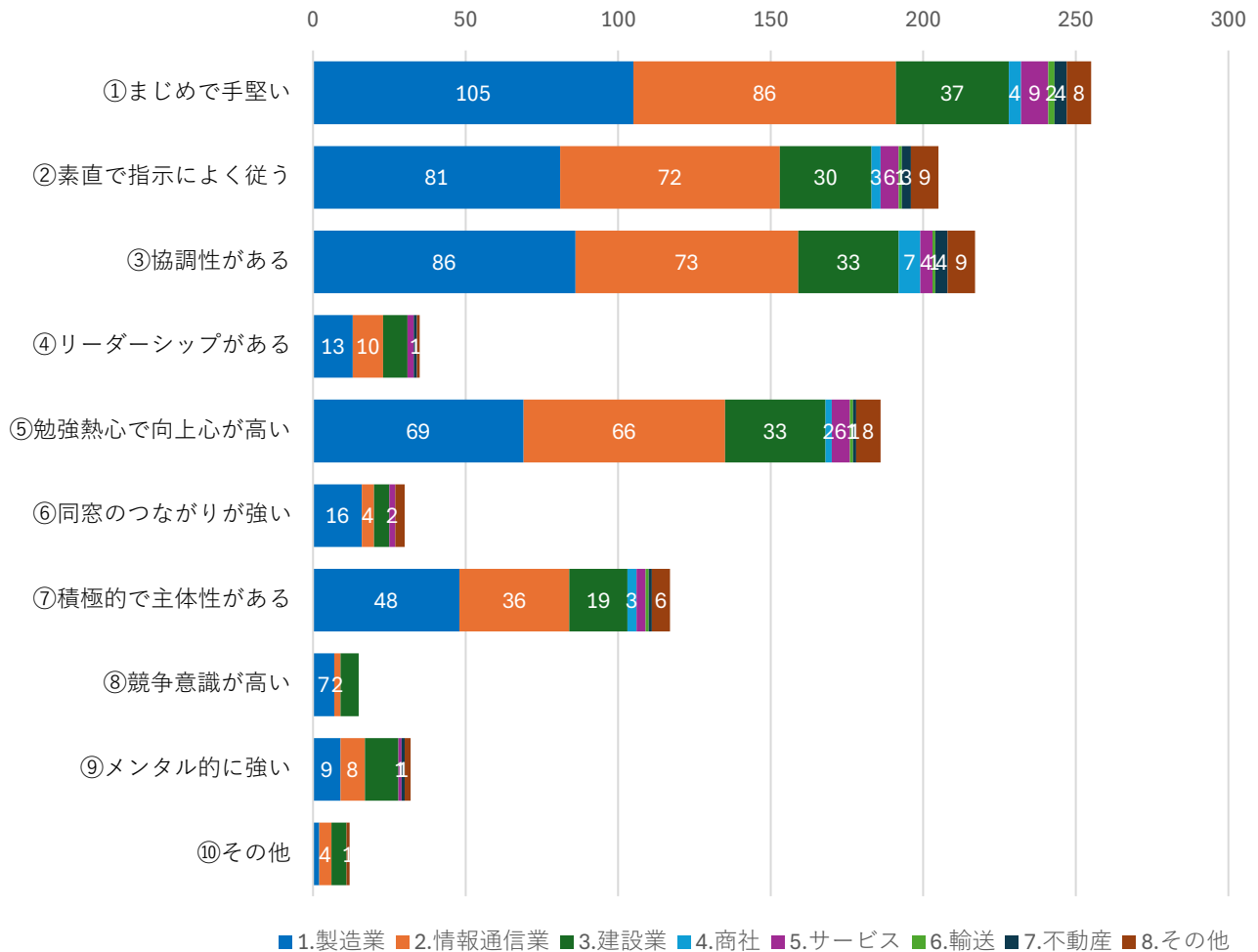


主な業種（製造業・情報通信業・建設業）の各項目の回答状況

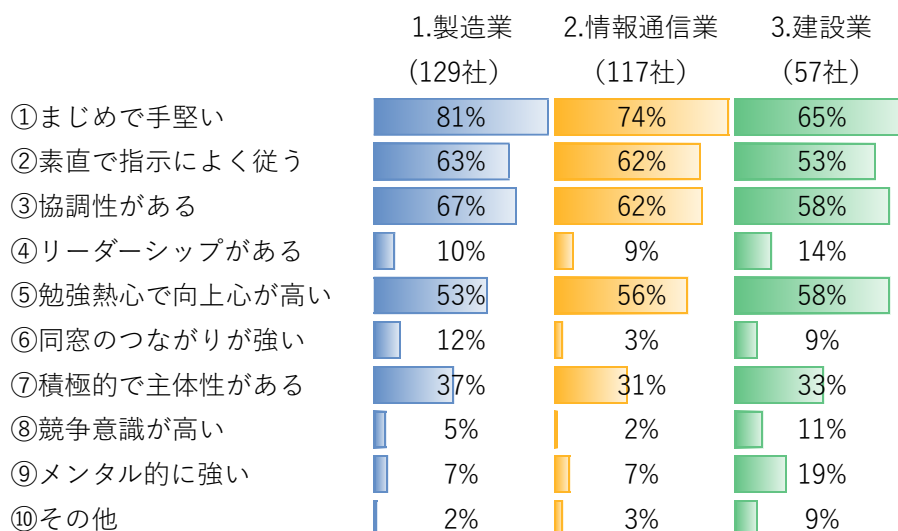


複数回答ではなく、一番重要とした場合には、「①コミュニケーション能力の育成」「②課題解決型教育」に回答が集約され、次に「⑤より実践的な実験・実習」が続く。

Q6. 最近（目安4～5年の間）の本学卒業生について特に感じる傾向等がありますか。
当てはまるものすべてにチェックしてください。（複数回答可）

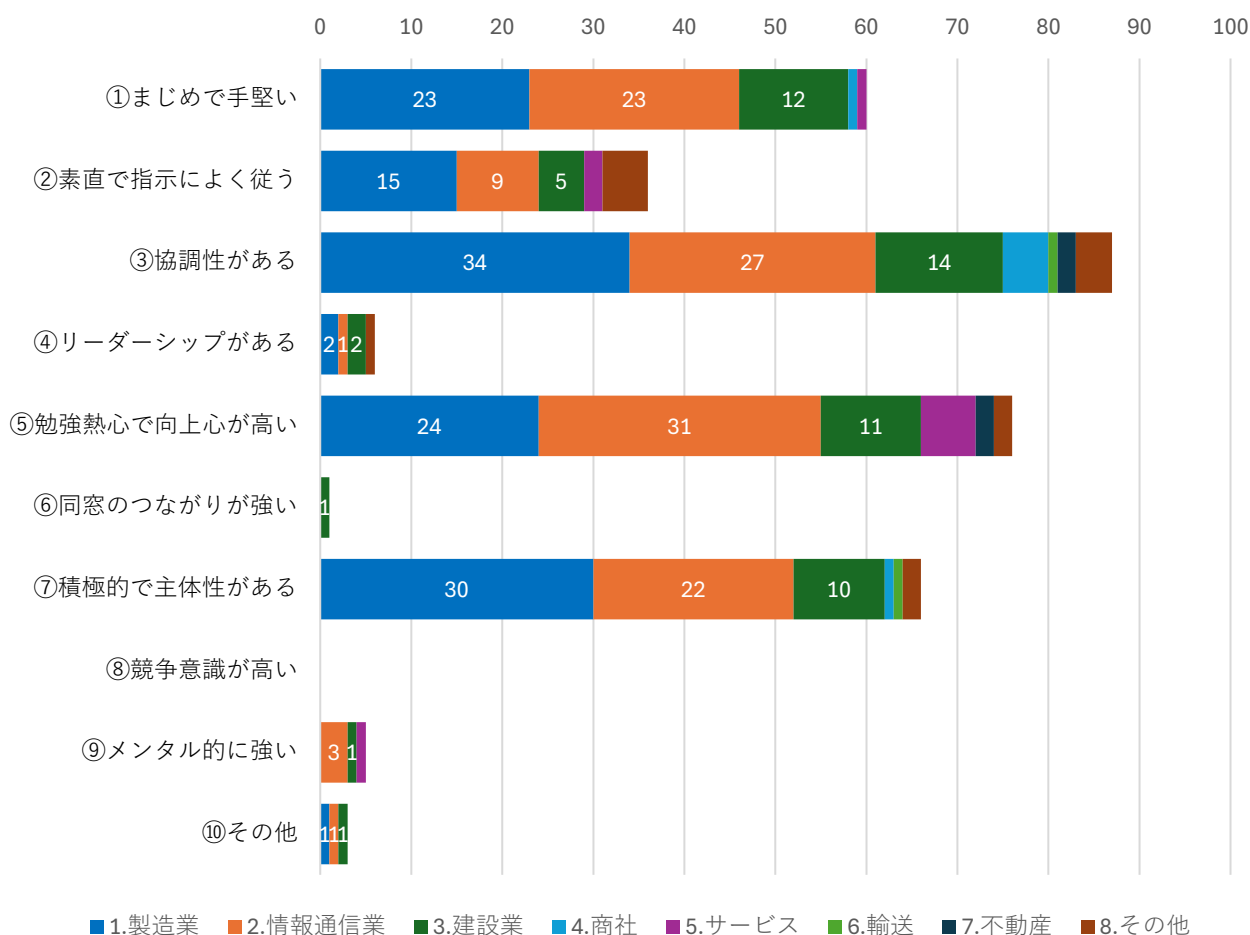


主な業種（製造業・情報通信業・建設業）の各項目の回答状況



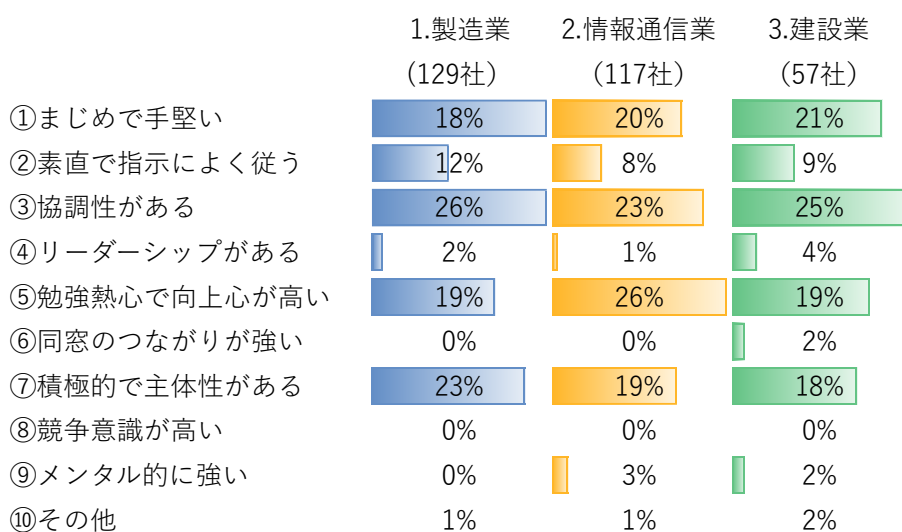
「①まじめで手堅い」が全ての主な業種から一番多く回答を得た。建設業における「⑧競争意識が高い」「⑨メンタル的に強い」は他の業種と比較して回答が多い。

※ Q6 でチェックいただいた回答のうち、一番重要だと思われるものをご選択ください。



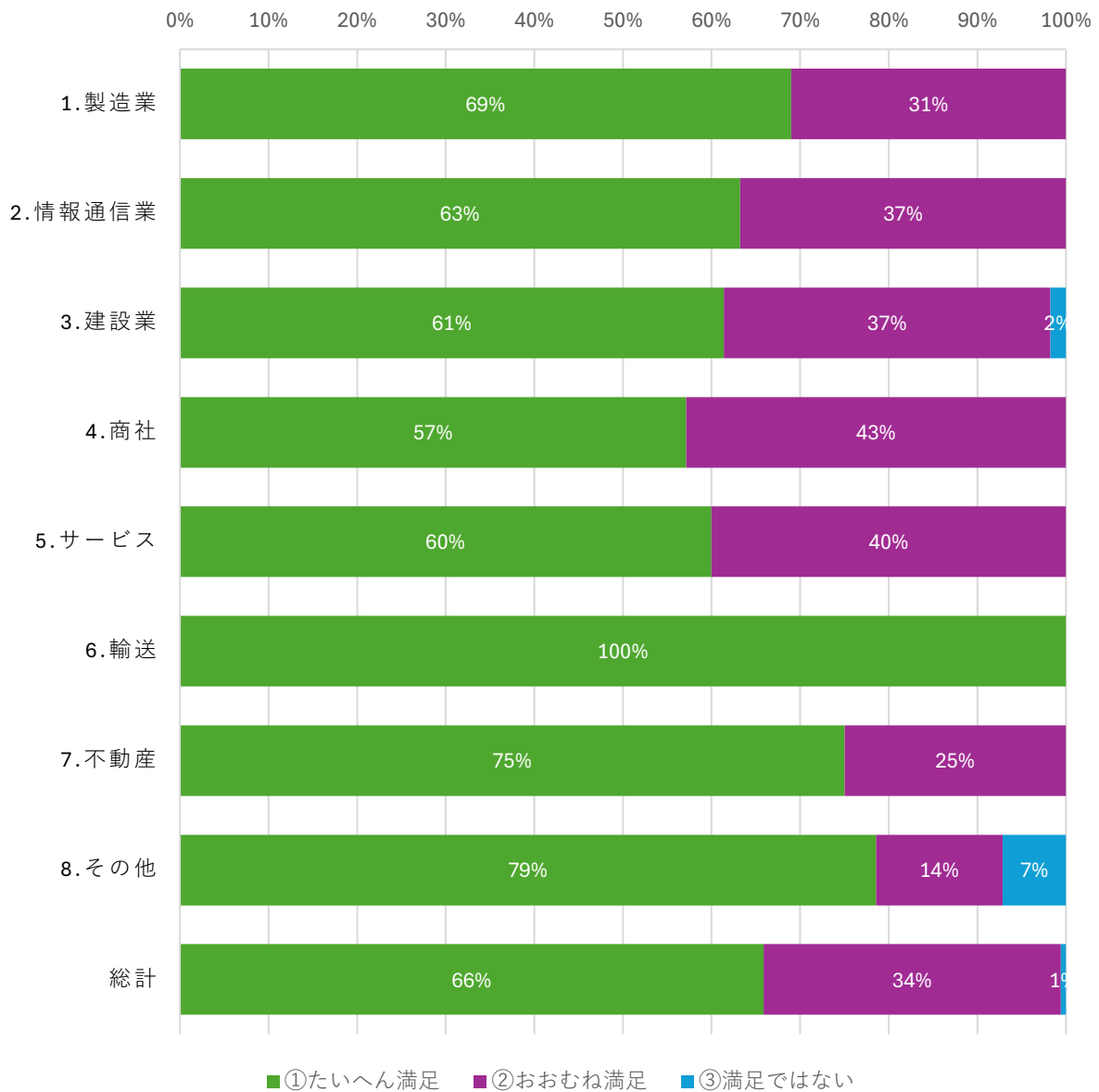
「一番重要だと思われるもの」と設問を変えると、「③協調性がある」「⑤勉強熱心で向上心が高い」「⑦積極的で主体性がある」に回答が集まった。

主な業種（製造業・情報通信業・建設業）の各項目の回答状況



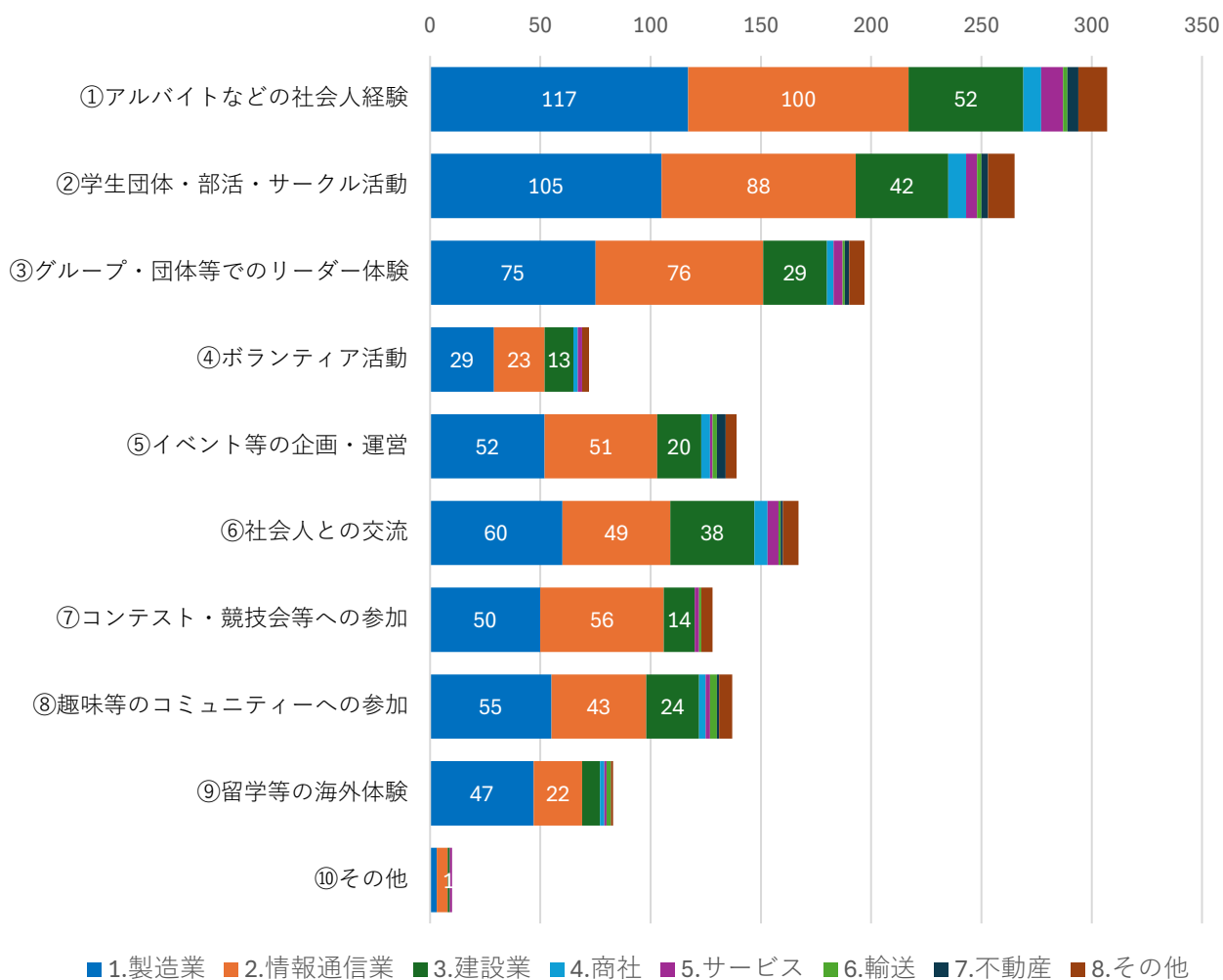
主な業種間による各項目の割合の差は概ね 1~4%だが、「⑤勉強熱心で向上心が高い」という項目に関して、情報通信業は製造業および建設業と比較し 7%の差がみられた。

Q7. 最近（目安4～5年の間）の本学卒業生についての満足度をお伺いします。

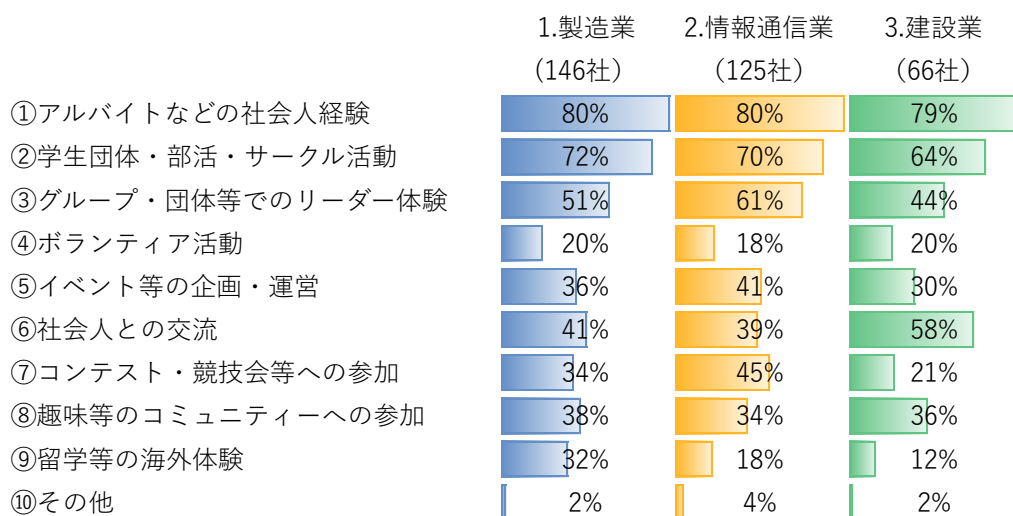


	①たいへん満足	②おおむね満足	③満足ではない	総計
1.製造業	89	40		129
2.情報通信業	74	43		117
3.建設業	35	21	1	57
4.商社	4	3		7
5.サービス	6	4		10
6.輸送	2			2
7.不動産	3	1		4
8.その他	11	2	1	14
	224	114	2	340

Q8. 社会人として必要な能力育成の観点から特に役立つと思われる正課外の大学生活での経験等がありますか。当てはまるものすべてにチェックしてください。（複数回答）

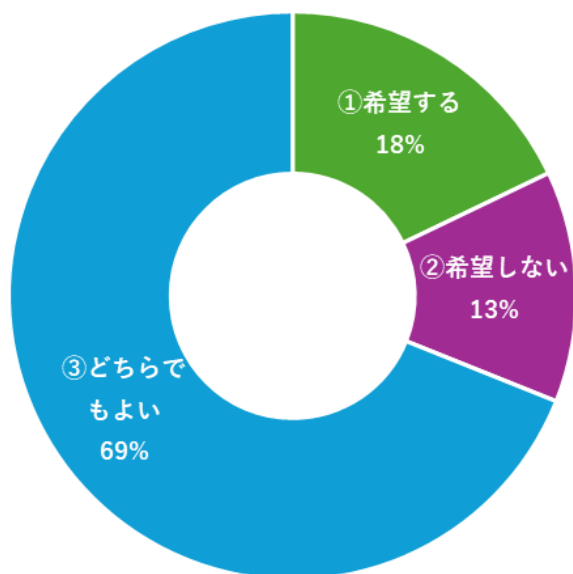


主な業種（製造業・情報通信業・建設業）の各項目の回答状況



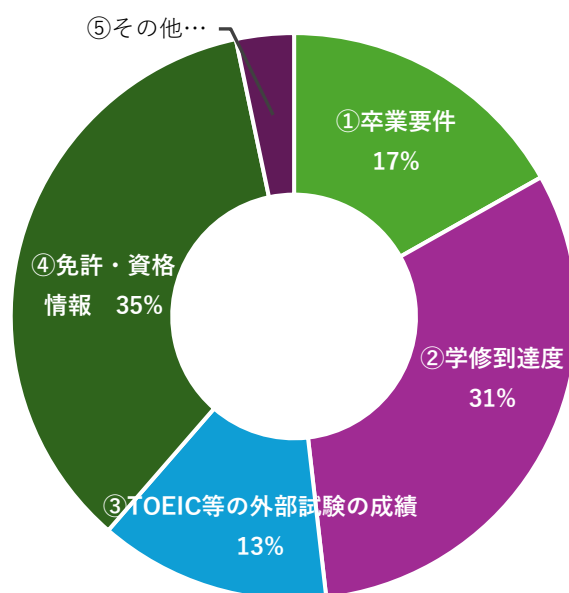
「①アルバイトなどの社会人経験」は主な業種全てで一番多く回答を得た。情報通信業の「③グループ・団体等でのリーダー体験」「⑦コンテスト・競技会等への参加」、建設業の「⑥社会人との交流」、は、他の業種と比較して回答が多い。

Q9. 本学がディプロマサプリメント※を発行することを希望しますか。
(※学生が取得した学位・資格の学修内容について大学が証明する説明文書)



※回答数 380 社

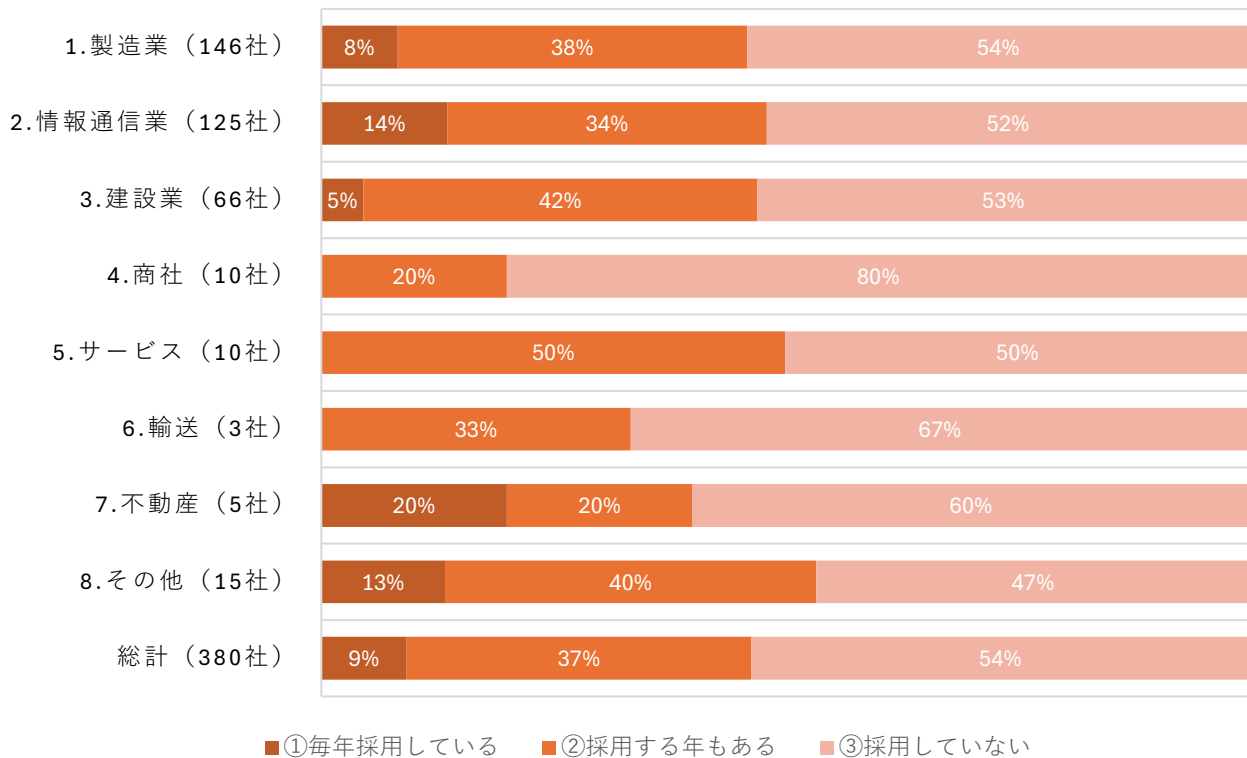
Q10. いわゆる成績証明書以外に成績の補足として期待する情報がありましたらご選択ください。



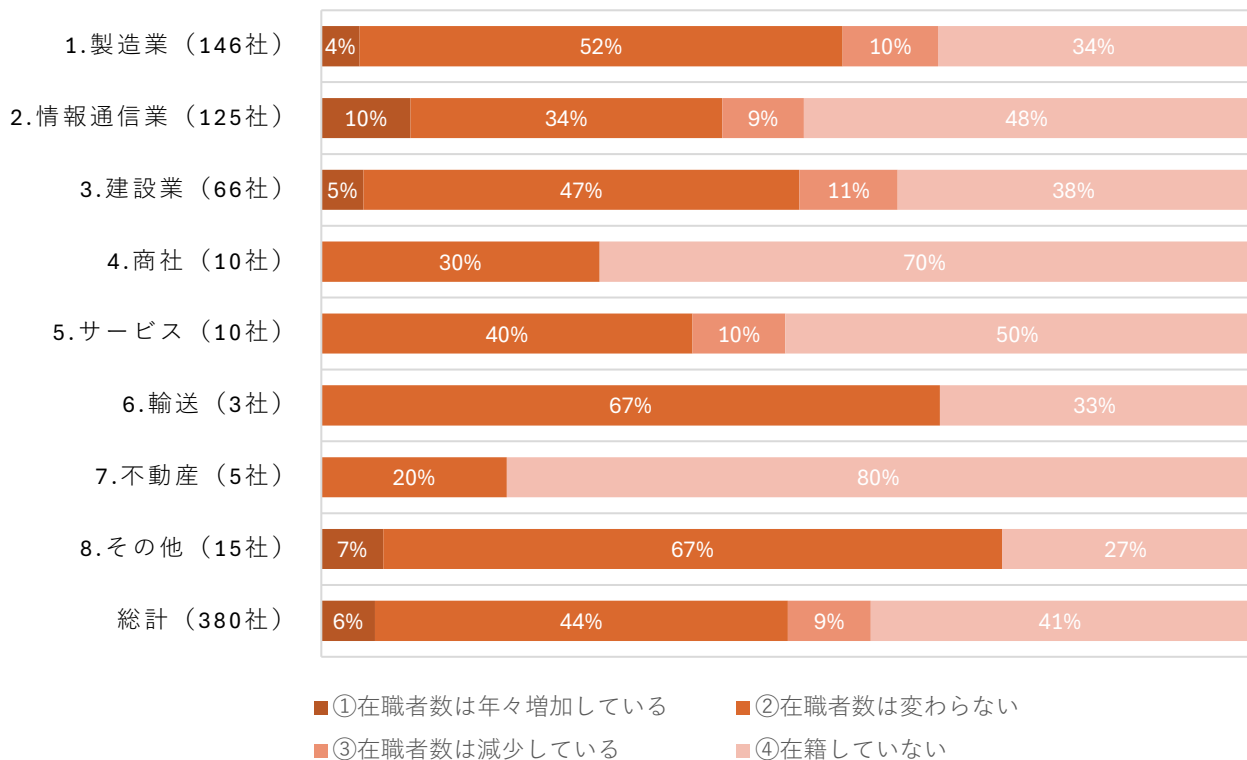
※回答数 380 社

【次世代研究者挑戦的研究プログラム（博士(後期)課程 SPRING）における社会ニーズ調査項目】

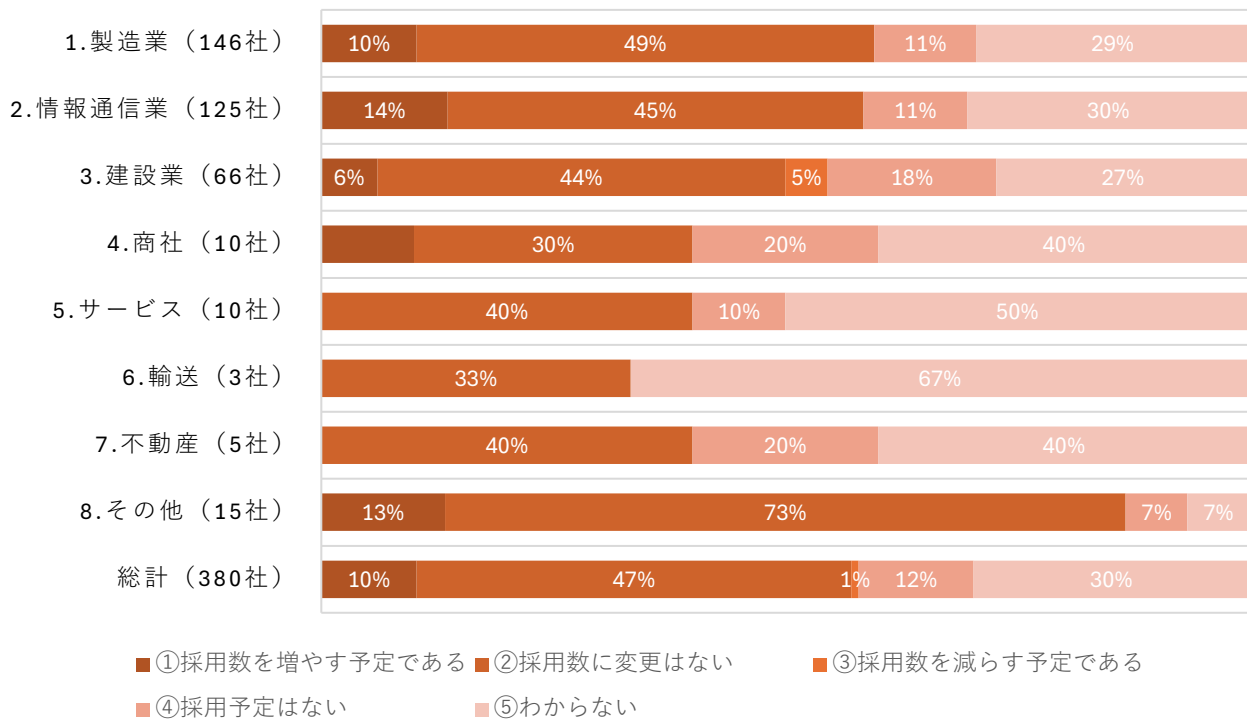
Q11. 過去5年の博士課程(後期)修了者の採用状況について教えてください。



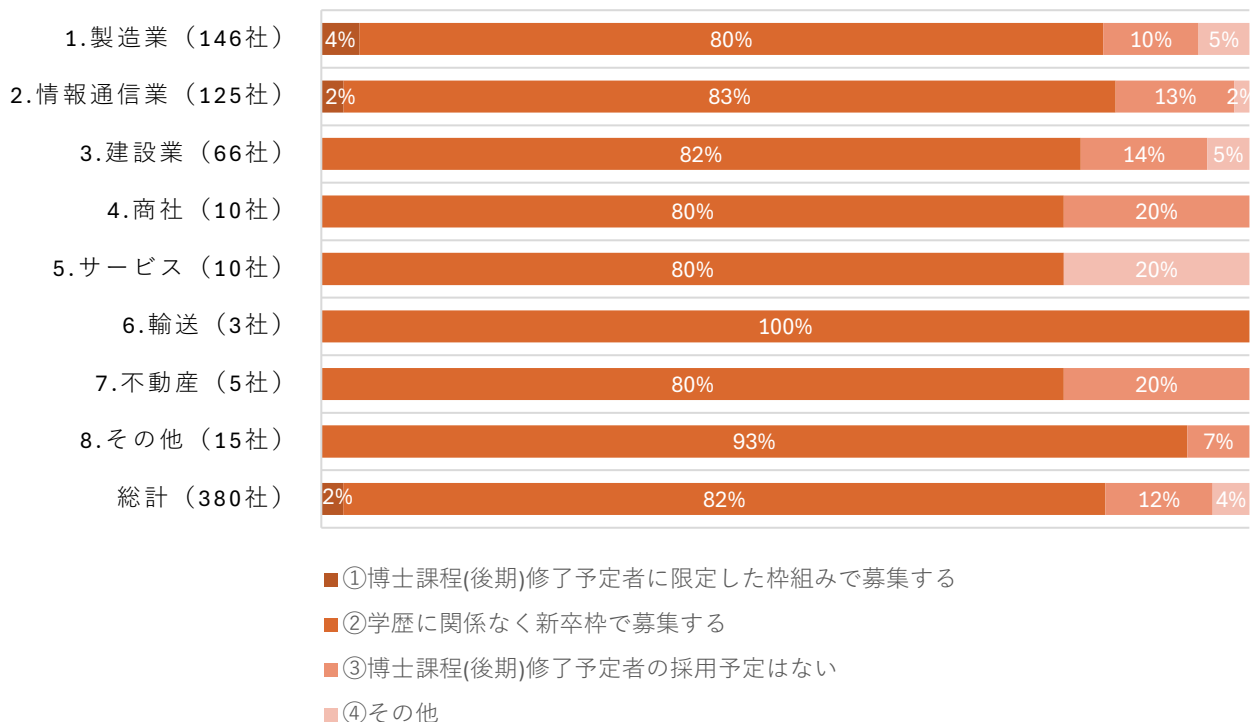
Q12. 博士課程（後期）修了者の在籍状況について教えてください。



Q13. 博士課程(後期)修了予定者の採用計画について教えてください。



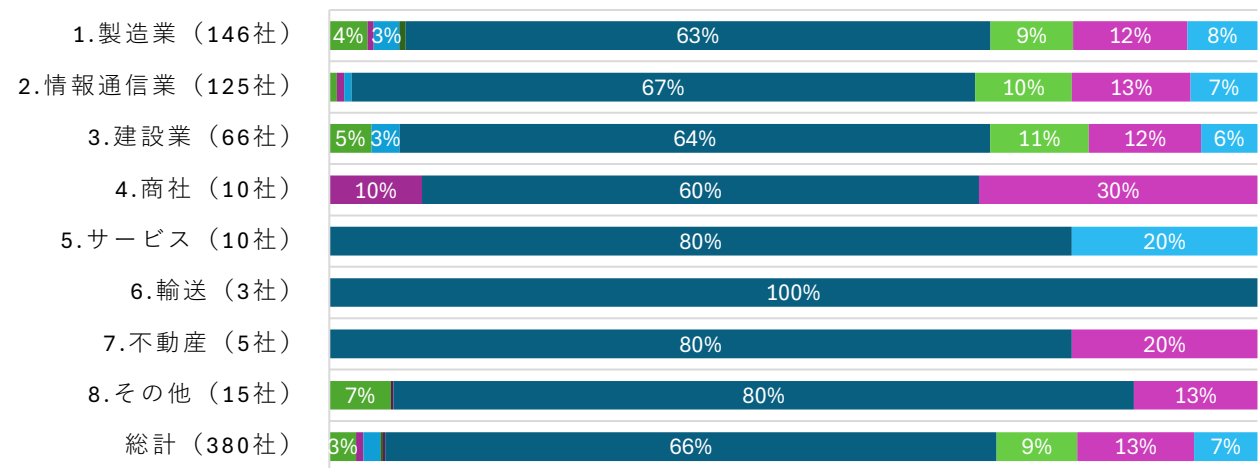
Q14. 今後の博士課程(後期)修了予定者の採用予定方法について教えてください。



その他回答 (Copilot を活用)

1. 前期修了予定者と同様に採用し、給与は個別相談。
2. 希望者がいれば選考方法を考慮。
3. 新卒もしくはキャリア採用での募集。
4. 雇用の前例がないため、発生時点でポジションを検討。
5. 修士課程と同等待遇で募集、専門域での採用もある。

Q15. 博士課程(後期)のインターンシップ等の実施状況について教えてください。



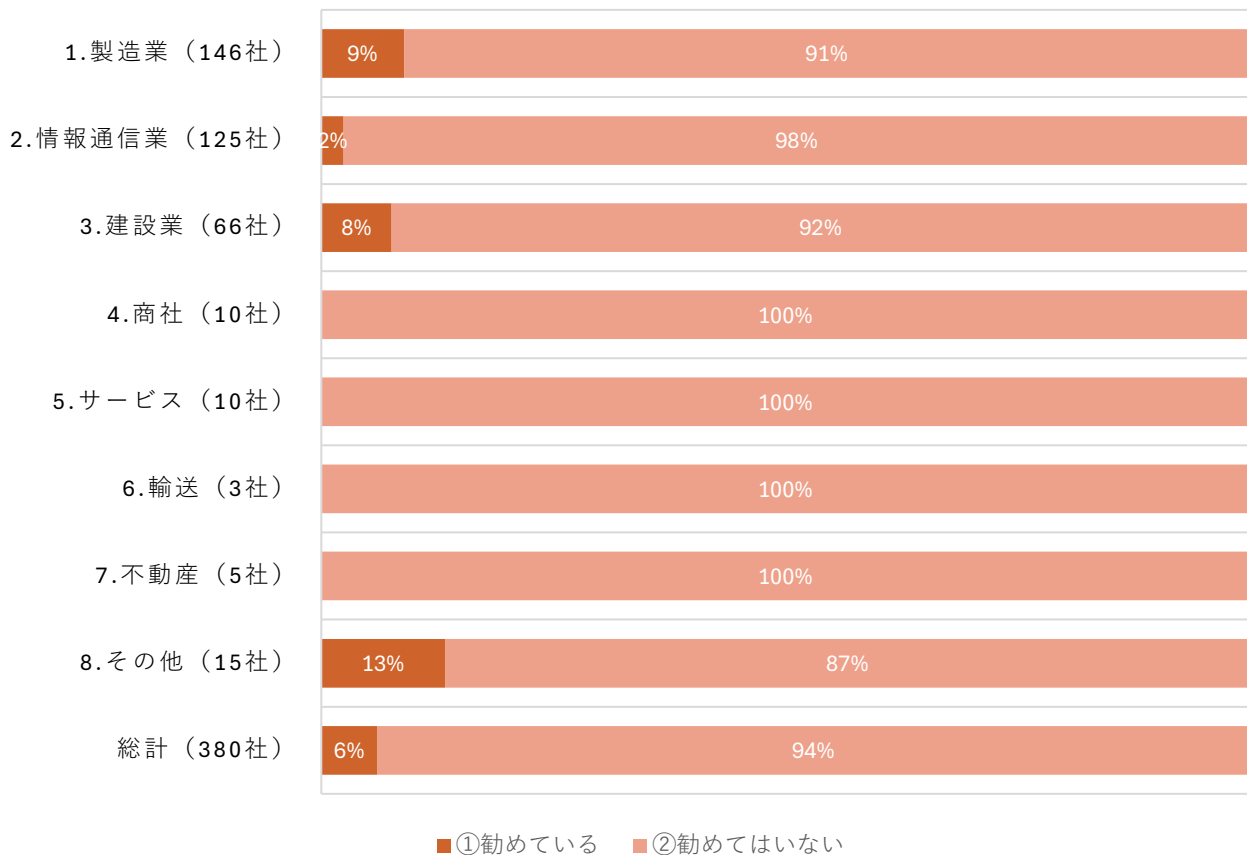
- ①文部科学省ジョブ型研究インターンシップを実施している
- ②博士課程(後期)学生に特化して1-3日間程度受け入れる形式で実施している
- ③博士課程(後期)学生に特化して5-10日間程度受け入れる形式で実施している
- ④博士課程(後期)学生に特化して2週間 - 1か月程度受け入れる形式で実施している
- ⑤博士課程(後期)学生に特化して長期間 (1か月以上) 受け入れる形式で実施している
- ⑥学部・修士課程学生と同じ枠組みで受け入れる形式で実施している
- ⑦博士課程(後期)の受け入れについては個別に対応している
- ⑧博士課程(後期)学生は受け入れる予定はない
- ⑨その他

(回答社数)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	総計
1.製造業	6	1	4	1	0	92	13	18	11	146
2.情報通信業	1	1	1	0	0	84	13	16	9	125
3.建設業	3	0	2	0	0	42	7	8	4	66
4.商社	0	1	0	0	0	6	0	3	0	10
5.サービス	0	0	0	0	0	8	0	0	2	10
6.輸送	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3
7.不動産	0	0	0	0	0	4	0	1	0	5
8.その他	1	0	0	0	0	12	0	2	0	15
総計	11	3	7	1	0	251	33	48	26	380

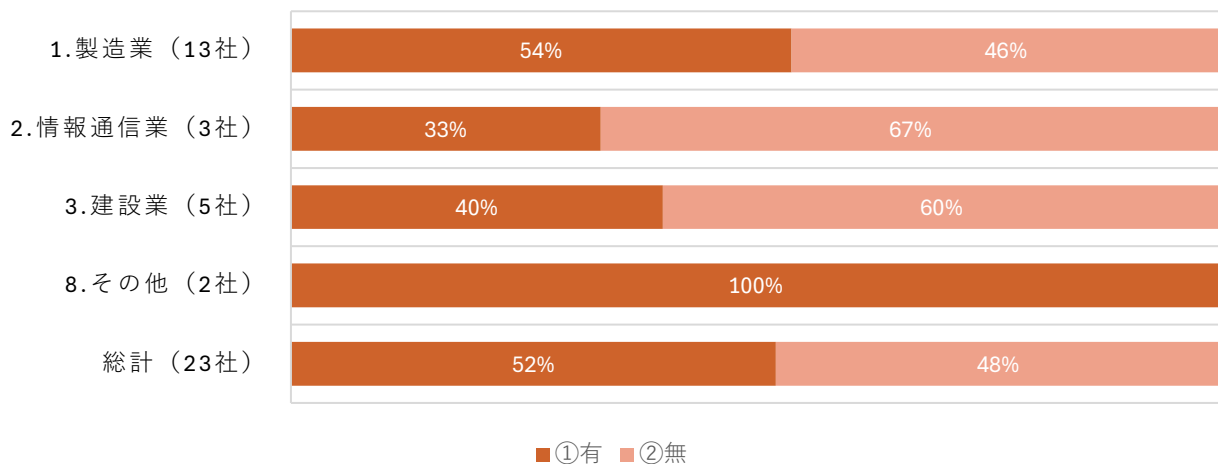
その他回答 (Copilot を活用)

1. 学士・修士・博士の区別なく受け入れ枠を設けている。
2. インターンシップは実施していない場合が多い。
3. 高専、学部生、院生向けに 10 日間の実践型インターンシップを実施する。
4. 博士課程修了予定者の応募があれば受け入れるが、応募が少ない。
5. オープンカンパニーを学歴関係なく実施する。
6. 最終選考参加者には 3～5 日間のインターンを実施する。
7. インターンは内定承諾後に実施する。
8. 現在、幅広く募集しているが申込みがない。
9. 学部・修士課程学生と同様にオンラインインターンシップを実施する。
10. インターンシップの実施を検討中だが、未定。

Q16. 社員に博士号取得を勧めていますか？



Q17. 社員の博士号取得をサポートする制度がありますか？



※上記以外の業種は無回答

Q18. 上記項目で「有」と回答された方は具体的な内容を教えてください（Copilotを活用）。

1. 共同研究先の研究室への出向を実施（給与、学費は会社負担）。
2. 社長自ら後期博士課程に通っており、社員向け制度をステークホルダーと調整中。
3. 博士号取得に関しては出社扱い、交通費支給。
4. MBA 取得支援、学費補助等。
5. 社会人ドクター制度導入予定、学費負担、通学時間確保を検討。
6. 入社後に博士号取得した場合、奨励金支給。

Q19. その他、本学や本学学生についてご意見やご要望などがあれば自由にご記入ください。
(83 社より回答、Copilot を活用)

要約

多くの企業が東京電機大学の卒業生を高く評価しており、定着率も高いと回答。専門分野にとらわれず幅広い興味を持つ人材を求めている。東京電機大学の学生の挑戦意欲や粘り強さを評価し、伝える力・アウトプットの重要性の指導を希望し、継続的な採用を希望している。

主な意見

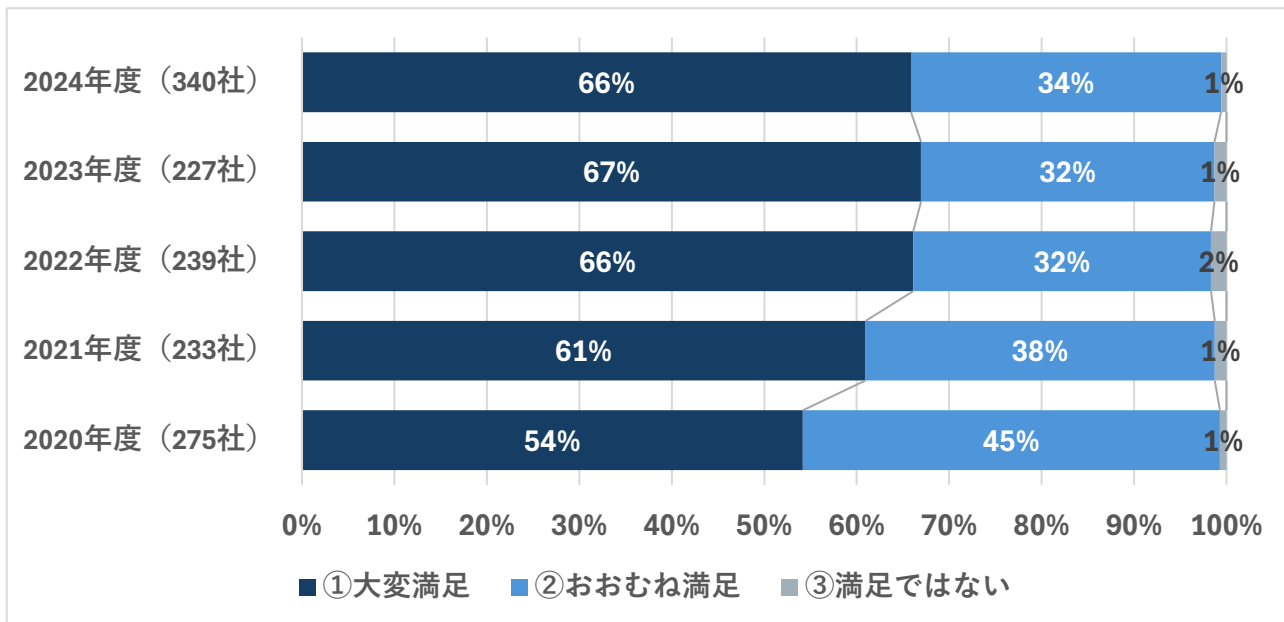
1. 評価と期待: 東京電機大学の卒業生は人望が厚く、成長が期待されている。
2. 専門分野の広がり: 専門分野にとらわれず、幅広い興味を持つ人材を求めている。
3. IT 分野の評価: IT 分野の知見を持つ学生を評価し、エンジニア採用を強化。
4. 挑戦意欲と粘り強さ: 学生の挑戦意欲や粘り強さを評価している。
5. 伝える力の重要性: 伝える力・アウトプットの重要性を指導希望。

経年比較

1. 採用した学生への満足度及びコミュニケーション能力の評価の経年比較（ ）内は有効回答社数

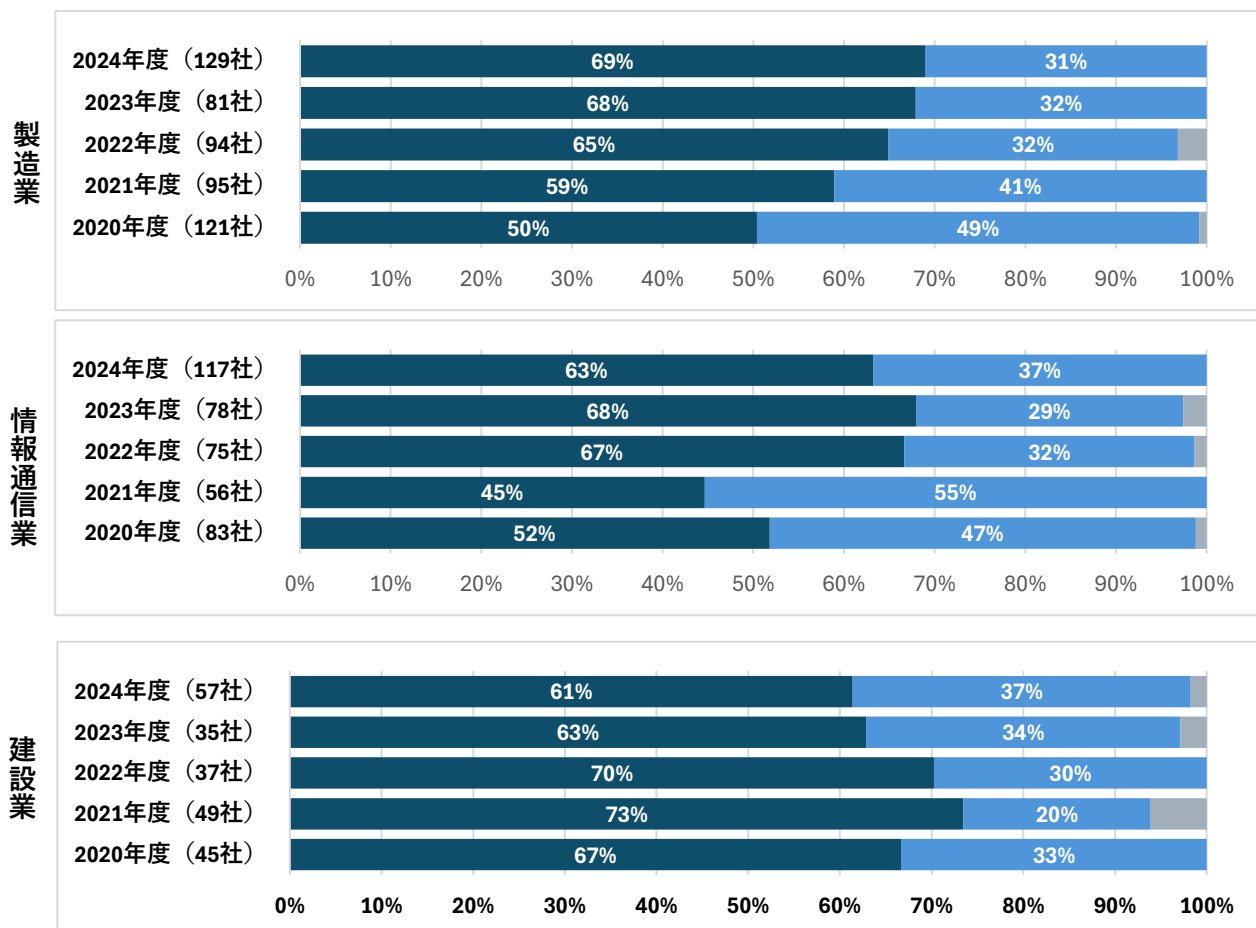
(1) 満足度の推移

満足度はコロナ禍を機に一時低下したが、全体的に復調し過去3年間ほぼ変化なく推移している。



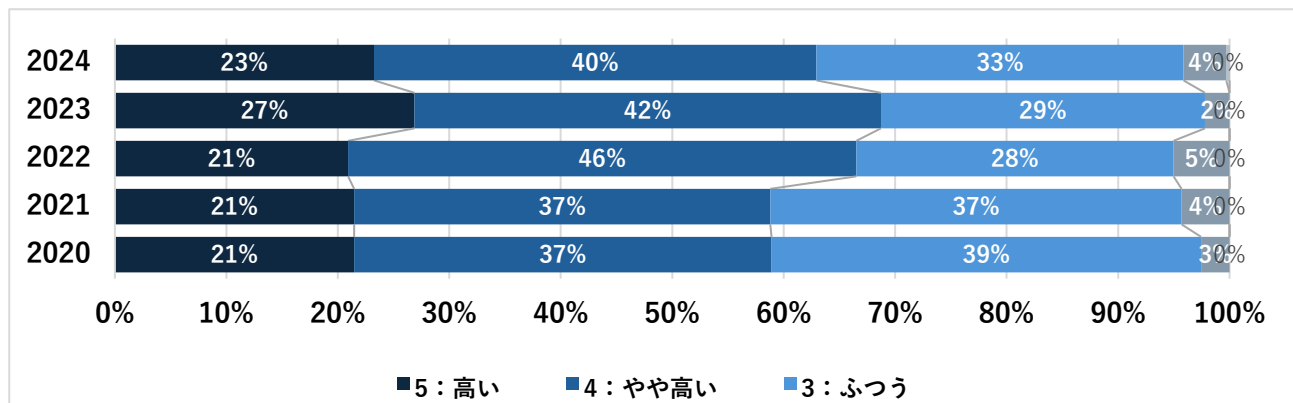
(2) 主な業界（製造業・情報通信業・建設業）の満足度の推移

製造業の「大満足」の回答率は過去5年間上昇しているが、建設業の「大満足」の回答率は過去4年間低下が続いている。

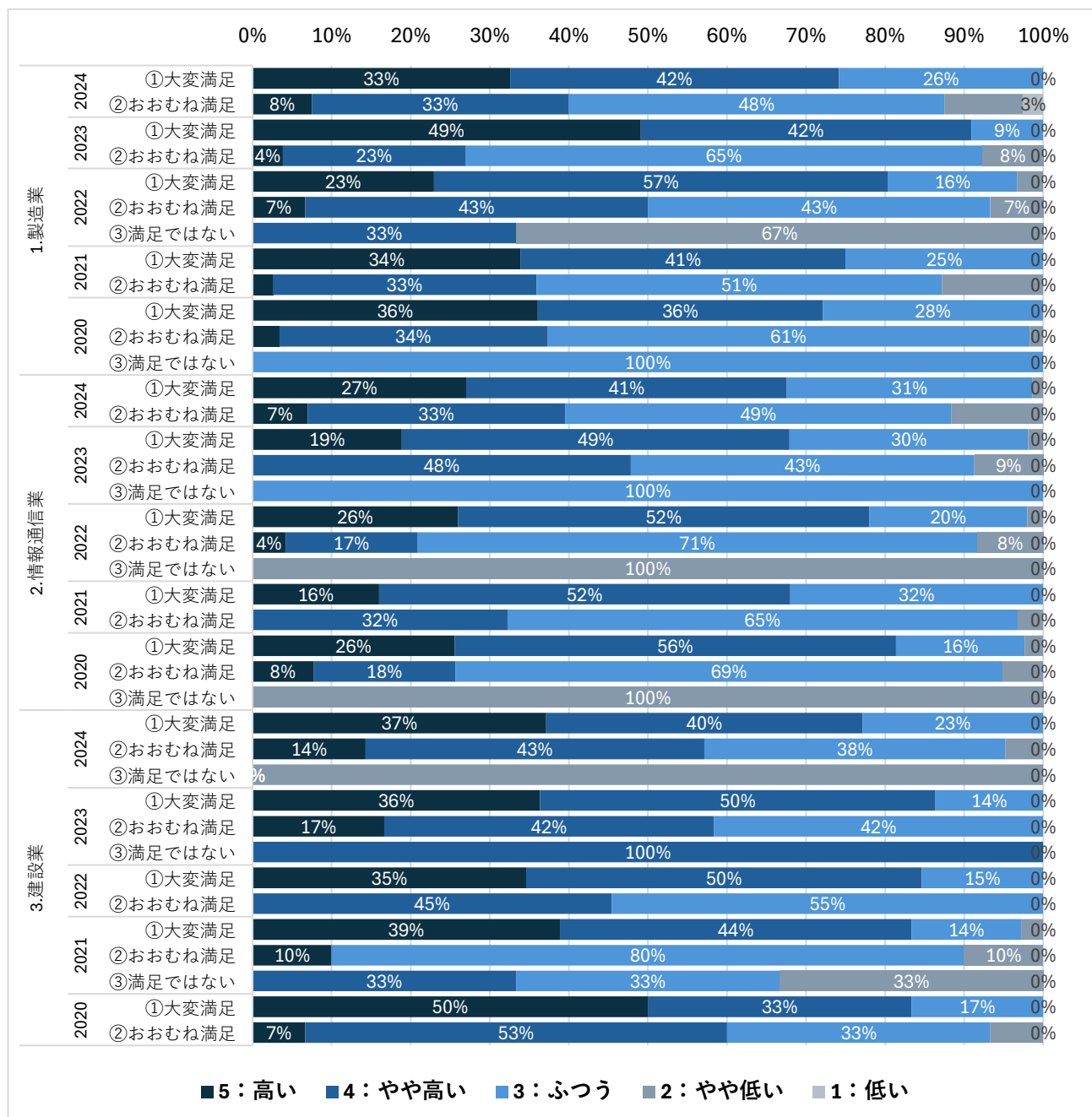


2.採用した学生のコミュニケーション能力の評価の推移

(1) Q4 入社した卒業生への能力評価「コミュニケーション能力」(全体)



(2) Q7 本学卒業生の満足度と Q4 コミュニケーション能力の評価との相関 (主な業種を抜粋)



総 括

この報告は、IR センターのデータ集計により作成し、教育の質の保証に資することを目的としている。併せてより効果的なキャリア・就職支援策の検討にも活用する。また、今年度は博士課程(後期)の「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)」事業への参考としても活用する。2024 年度は、過去 3 年間に学生が内定した企業を中心とした 1,147 社を対象にアンケートを実施した。

1. 教育の質の保証(教育改善策)とキャリア・就職支援策について

2024 年度の卒業生への満足度は、「大変満足」と「おおむね満足」を合わせると全ての業界において 93%以上と高い数値であった。特に本学学生の評価として「まじめで手堅い」「勉強熱心で向上心が高い」という点においては、各業種において数値が高く、本学の実学尊重における基盤教育と「技術は人なり」を体現した教育の成果の表れであると言える。

社会人基礎力の一つとしてあげられる「コミュニケーション能力の育成」は、「充実すると良いと思われる教育」として毎年 1 位にあげられている。他に重視されているのは「課題解決型教育」と「より実践的な実験・実習」、「グループワーク」等である。初年次教育に導入されている「東京電機大学で学ぶ」でのグループでの意見交換の実施や、その他 PBL 等の課題解決型授業、ハンズオン教育の推進の重要性が増している。キャリア・就職支援活動では、グループワークを取り入れたセミナーや、後輩学生が先輩学生に相談できる窓口として設置した TDU キャリアカフェも効果的であった。これにより「コミュニケーション能力」と「問題解決能力・実行力」ともに「高い」「やや高い」とする割合が 70%に近づきつつある。今後も引き続きこれらの教育及び支援は重要である。学生同士の関わりを重視したグループディスカッションやグループワークを取り入れた支援をさらに充実させて実施することで他者との会話を通して多様な価値観に触れ、柔軟な発想や視野を広げるなど、教育や就職に留まらず、成長が企業からの高評価にもつながることが期待される。

2. 次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)の促進について

今年度は本プログラムを推進するにあたり企業の在籍状況や採用状況など基本的事項についてアンケートを実施した。

過去 5 年間に博士課程(後期)修了者を「毎年採用している」と「採用する年もある」と回答した企業は 46%だった。採用は学士・修士・博士の区別なく受け入れている企業が圧倒的に多く全体の 82%であり、インターンシップについても博士課程に特化せず学士や修士と同じ枠組みで受け入れる企業が多かった。本事業では博士後期課程学生の多様なキャリアパスの構築を目的のひとつとしており、将来の就職をアカデミアのみならず、様々な産業界等を進路の候補とし、広い視野を持って自分に合う進路を選択できるよう促す支援を実践していく。6 月には博士課程(後期)を受け入れ対象とする企業や自治体による博士課程(後期)対象の学内インターンシップセミナーを実施し、博士課程(後期)学生の産業界への進路選択も拡充していく。

※次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)：

次世代研究者挑戦的研究プログラムは(国立研究開発法人科学技術振興機構(JST))は、博士後期課程学生による既存の枠組みにとらわれない自由で挑戦的・融合的な研究を支援し、また、生活費相当額の支給により学生が研究に専念できる環境の整備、更には優秀な博士後期課程学生を多様なキャリアパスで活躍できる博士人材へと導くことを目的としている事業であり、令和 7 年度は本学を含む 13 大学が採択された。

以 上